

会計ポイント

協力：公認会計士坪井敦事務所 坪井敦氏（公認会計士）

社会福祉法人の決算書の読み方

社会福祉法人の会計基準が改正され、平成27年度からはすべての社会福祉法人が新会計基準により決算書を作成することになります。そこで、今号より4回にわたり新会計基準による決算書の読み方について解説します。

1回目は、資金収支計算書の読み方を解説します。

資金収支計算書

資金収支計算書は、1年間における法人のすべての資金の増加（収入）と資金の減少（支出）の状況を表示する計算書です。資金の動きを通じて法人の活動を読み取ることができます。なお、資金は、現金預金だけでなく事業未収金や立替金などの流動資産、事業未払金や預り金等の流動負債を含んでいますので、いわゆるキャッシュフロー計算書とは、その対象となる取引の範囲が異なります。

【資金収支計算書の区分】

勘定科目		予算	決算	差異
事業活動による 収支	収入	2,000	2,030	-30
	支出	2,100	2,020	80
	事業活動資金収支差額	-100	10	-110
施設整備等による 収支	収入	300	300	0
	支出	410	400	10
	施設整備等資金収支差額	-110	-100	-10
その他の活動による 収支	収入	250	150	100
	支出	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	250	150	100
当期資金収支差額合計		40	60	-20
前期末支払資金残高		600	600	0
当期末支払資金残高		640	660	-20

予算管理の状況

資金収支計算書は、予算の額、決算の額、差異の額を並べて表示する様式となっています。社会福祉法人においては、適正な法人運営を確保する観点から予算管理が重視されており、資金収支計算書において予算管理の状況を確認することができるようになっています。

具体的には、差異欄に着目します。支出科目においてマイナス金額となっている科目がないかどうか確認します。資金収支計算書は、法人全体及び拠点区分ごとに作成されますが、法人全体ではマイナスとなっていない場合であっても、拠点区分ごとにみるとマイナスとなっている場合がありますので、拠点区分ごとの確認も必要です。

資金収支差額の意味

資金収支計算書は、資金の動きを3つの活動に区分し、それぞれの活動ごとに収入、支出及び収支差額を表示しています。

①事業活動による収支

措置費収入や介護保険事業収入など経常的な事業活動の収入と、人件費支出や事業費支出など経常的な事業活動の支出を計上する区分であり、この段階の資金収支差額は、プラスであることが必要です。ただし、過大なプラスは、どこかに問題が発生している可能性がありますので調査が必要です。マイナスであっても、退職金支出や大規模な修繕費支出など一時的な原因によるものであれば問題はありますが、恒常的なマイナスは、原因を調査し改善をしていく必要があります。

②施設整備等による収支

施設整備や固定資産物品の取得等に係る収入及び支出を計上する区分であり、この段階の資金収支差額は、通常、マイナスとなります。固定資産の取得にあたり、その財源として補助金収入や借入金収入がある場合には、マイナスが小さくなります。なお、その年度において固定資産取得支出がない場合であっても、過去の施設整備に係る借入金返済がある場合にはマイナスとなります。施設整備等資金収支差額がプラスとなる場合は、固定資産の売却がある場合などに限られます。

③その他の活動による収支

この区分には、事業活動による収支及び施設整備等による収支に属さない収入支出が計上されます。この段階での資金収支差額はマイナスの場合よりもプラスの場合が要注意となります。マイナスは、資金の余裕があることから、将来のための積立資産支出や法人内の他事業支援のための繰入金支出を計上している可能性があります。プラスは、逆に、資金の余裕がなく積立資産取崩収入や他事業からの繰入金収入を計上している可能性があります。プラス・マイナスそれぞれの原因をしっかりと確認する必要があります。

当期末支払資金残高の水準

資金収支計算書の最後には、当期末支払資金残高が表示されます。当期末支払資金残高は、いわゆる繰越金であり、運転資金を意味します。この当期末支払資金残高が妥当な水準にあるのかどうかを確認する必要があります。一般的に、措置費や運営費の事業では、事業活動収入の2～4か月程度、介護保険や障害サービス事業等では、3～6か月程度が妥当かどうかの目安になると考えられます。